１月の農作業管理

柑橘

指導販売課

「一果入魂」こだわりを持った生産管理に努めよう

１、カイガラムシ類（近年発生多い）、ミカンハダニの防除

ミカンハダニ・カイガラムシ防除は、冬季のマシン油散布が基本です。
１２月に散布していない園は１月上旬までに散布を終えましょう

時期	散布目的	薬剤名
１月 上旬	カイガラムシ類 ミカンハダニ	機械油乳剤(95%)　40倍 又は アタックオイル　60倍

○散布後、晴天が2、３日予想される日に、樹の内部に（幹・枝・葉裏）にも十分かかるよう散布して下さい。また、樹勢の弱った樹への散布は控えましょう。
○カイガラムシ類（ヤノネ・サンホーゼ等）ミカンハダニ等の越冬害虫の防除は、**機械油乳剤（95%）４０倍**を散布しましょう。
ただし、中晩柑及び極早生等樹勢の弱い品種・系統には**アタックオイル６０倍**を散布しましょう。（ハダニ防除主体）
○越冬柑橘のせとみ・デコポンは**アタックオイル60倍を3月上旬に**散布しましょう。

２、低温、鳥害対策

○気温が-４℃以下になると予想される場合は、低温情報を防災無線、みかん作りLINEでお知らせ致します。低温情報が入った場合は、直ちに収穫を行いましょう。
○鳥(ｶﾗｽ等)の被害をふせぐため園内（樹上・ヨコ）に糸張りをしましょう。

３、貯蔵管理

○腐敗果の点検はこまめに実施しましょう。
○換気・庫内温度・湿度の維持管理で品質低下を防ぎましょう
２、３日に一度、朝夕換気を行って湿度８５％を保持しましょう。
乾燥が強い場合は新聞紙やコモ等で棚を覆ったり打ち水をして湿度を保ちましょう。
○伊予柑はヘタ枯れに注意し、2、３日に一度換気し湿度85%を保持しましょう。
○寒波襲来時には、庫内が２℃以下にならない様に温度調節を行いましょう。
（油胞黒変症、ヤケ果防止）

＜換気・出庫の際の注意点＞
・気温が比較的高く、湿度が高い場合、外気が果実温の低い果実にあたると結露する場合があります。温度差に気をつけましょう

品　種	貯蔵区分	貯蔵庫内の温度(℃)	貯蔵庫内の湿度(%)
温州みかん	貯　　蔵	5～8	85
中晩柑類	貯　　蔵	5～8	70～90

４、その他管理

樹勢回復、　*園内の排水溝を整備しよう　！！*　（１月～２月）

〇樹勢回復、品質向上を目指した細根増加のため、堆肥の施用や客土を行いましょう。
尿素　500 倍　＋　リンクエース　2,000 倍・・・・葉面散布
豊穣・・・・・・・・・・・１本当り 30kg（15 年生）施用
バーク堆肥・・・・・・・・１本当り４０kg

※特に「せとみ」は水分保持のために堆肥等を施用を

〇品質向上・秋の降雨による品質低下防止のため、雨水を速やかに園外に排水できるよう園内排水路を整備しましょう。　（溝上げで出た土は樹冠下へ客土）

※マルチ栽培園では園内排水溝整備は品質安定のための必須作業になります。

落葉果樹

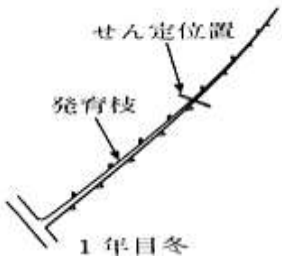
キウイフルーツの管理

防除…１月上旬にカイガラムシ防除に機械油乳剤１４倍を散布しましょう。

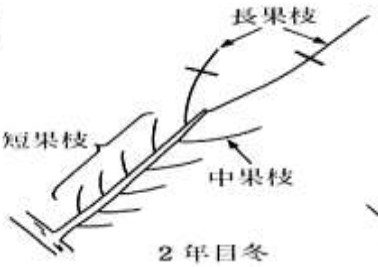
剪定…側枝上の結果母枝には充実した発育枝を利用し、母枝の密度は長さ１㎡当り２、３本としましょう。【時期…１月上旬～１月中旬】

梅の剪定　　【時期…１月上旬～１月中旬】

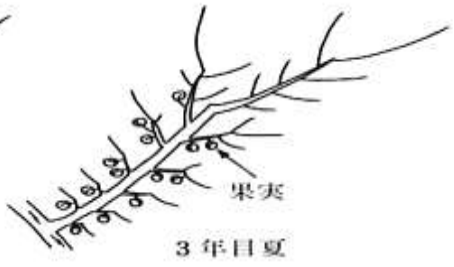
15cm 以下の短果枝に充実した花がつき良く結実します。
全体の３分の１から４分の１を切り戻し、次年度、短果枝がまんべんなく発生するようにしましょう。



強く切り返すと長果枝が多くなり、花や実が着きにくくなるので、枝の強さで調節する



先端の 2～3 芽は長果枝、それ以下は中果枝や短果枝になる



中果枝や短果枝によく結実する

水　　稲

土作り　…　ケイカル又はミネラル GF を 10a 当り 150～200kg 施用しましょう

冬季に土作りをしましょう！

◎営農相談フリーダイヤル　　０１２０－０８２－７２２